



津久見湾に浮かぶ小島は木々に覆われ、太陽の光を浴びて新緑が輝いていました。ドローン（小型無人機）で空から撮影しました。

津久見湾に浮かぶ網代島。干潮の限られた時間（たけ砂の道が現れ、歩いて渡ることが出来る）撮影・原田宏一



## 「流れ星のかけら」宿る島

津久見市の網代島

### 空旅

津久見湾に浮かぶ小島は木々に覆われ、太陽の光を浴びて新緑が輝いていた。広さ約200平方メートル。干潮の限られた時間にだけ砂の道が現れ、歩いて渡ることができる。

南東部の岩場には黒、緑、紫、赤と色の違う岩石「チャート」の地層がある。津久見市教育委員会によると、今から約2億5千万年前の中生代にできたとき、色の変化は生物の大量絶滅から回復した過程を記録したものだといわれている。

地層からは「流れ星のかけら」と言われる「宇宙塵」の粒子が発見された。コロナ禍で閉塞感が覆う今、嫌なことを忘れ、地球や宇宙に思いをはせてみるのもいいかもしれない。  
(渋谷優子)

2020年5月27日付大分合同新聞16面

※網代島の広さは概算で約1万1千平方メートルとみられています。おわびして訂正します。(28日付の訂正記事より)



- ① この島の名称と所在地（市町村名）は？  
おおよその位置を地図に記してください。

名称 / 網代島 所在地 / 津久見市

- ② 島の南東部には黒、緑、紫、赤のチャート（岩石）の地層があります。この地層は、いつ頃のもので、何を記録していますか？

今から約2億5千万年前の中生代の地層。チャートの色が黒から赤へと変化していることから、生物の大量絶滅から回復した過程を記録したものだといわれている。

- ③ 網代島について調べてみましょう。

網代島のチャートは、生物が大量絶滅した直後の中生代の三畳紀に、大陸から遠く離れた深い海でプランクトンが長い時間をかけて積み重なってできました。黒→緑→紫→赤と色に変化しているのは海中の酸素が増えたから。ほ乳類が出現したのはこの頃の話です。宇宙塵は約2億4千万年前に降り注いだものです。  
(津久見市観光協会のホームページから調べました)